

# 研修ニュース

〒518-0814

三重県伊賀市上友生 785 番地

Tel&Fax 0595-21-8839 E-mail [iga-ken@iga.ed.jp](mailto:iga-ken@iga.ed.jp)

今回は、B-6  
「生徒指導③」  
の報告です。



## 研修講座 生徒指導③

### 「Q-Uの活用～スクールカウンセラーの視点から～」

【講師】 伊賀市教育委員会事務局 臨床心理士・公認心理師 木村 敦裕 先生

10月12日(木)、臨床心理士・公認心理師の木村敦裕先生をお迎えし、研修講座「生徒指導③」を実施しました。講義では、スクールカウンセラーの視点からQ-U調査の見方や基本的な活用の仕方についてご指導いただきました。



初めに、「本研修を通して、Q-U調査の理解を深め、児童生徒とのコミュニケーションや学級経営に活かして欲しい」という話があった後、Q-U調査の承認項目と侵害項目について改めてご指導いただきました。

承認項目⇒学校・学級(社会環境)の中で「そこにいる」事への信頼感。(安心の度合い)

- ・「認められている」「励まされている」など周り(教師やなかま)からの発信を肯定的に受け止めているかどうかを見ることが大切である。

侵害項目⇒社会環境の中で「脅かされていない」「脅威を感じていない」度合い。(安全の度合い)

- ・家庭環境等により、本人の認識が変化することもあり、学校環境だけで回答できない子どもも多い。また、周囲への信頼度により脅威と感じる基準が変化することもあるため、学級全体を俯瞰する必要がある。

次に、学級経営に関わって、指導の方向性とQ-U調査の結果のつながりを考える必要性についてご指導いただきました。結果は児童生徒の応答として受け止める必要があること、学級全体として安全性が脅かされていたとしたら学習規律など社会性に関わるルールや約束が守られているかが大切であり、共通した規律は安全性を高めやすいということ学びました。

最後に、ハイパーQ-U調査を活用するメリットについて、ノーマルQ-U調査にはない項目を説明いただきながら教えていただきました。ハイパーQ-U調査は、ソーシャルスキルの尺度として「関わり」と「配慮」を回答から読み取ることができることや、より深く個人及び学級全体の状況(関わり合い)や家庭状況等から回答が変化することも読み取りやすくなることが分かりました。本研修で学んだことを各校で還元いただくとともに、今後の学級経営に活かしていただきたいと思います。

#### アンケートより【一部抜粋】

- ・今日は改めて自分の学級の子どもについて考えながら研修を受けることができ、とても勉強になりました。細かい項目について読み、矛盾したところを見つけることで、今のその子にとって何が必要なのか考えたり、学級経営の仕方を見直したりすることが大切だと思いました。(小)
- ・Q-U調査は、今の自分ができていることとできていないことを如実に教えてくれるものとして、もっと真剣に向き合うことがクラス経営の改善につながるのではないかと思います。Q-U調査を通じて、子どもが抱えているものを見つけるきっかけに今後もしていきたいと思います。(中)